

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400308		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム グース 1F		
所在地	函館市花園町24-3		
自己評価作成日	平成30年2月6日	評価結果市町村受理日	平成30年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の思いを尊重し、日々の生活を穏やかに自分らしく過ごして頂けるよう、スタッフ一同、日々活発に意見を出し合い、相談し実現に取り組んでいます。年間を通し四季折々の行事を楽しんで頂いたり、町内会の催し物等に参加させて頂いています。また、健康維持のためリハビリ体操・嚙下体操を行っています。食事に関しては、当グループホーム関連会社が配食産業の会社であり、ご高齢の方に最適な食生活を提供する事を責務としています。また、全道各地に同グループの事業所があり、連携を取り合っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0191400308-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年2月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホーム グース」の前に市営花園団地があり、後ろには鮫川が流れ、函館循環器内科医院が隣接して立地している。運営法人は道内各地に於いて各種高齢者福祉事業に携わり、函館市内にも系列の施設があり、合同で研修会を開催している。事業所は2階建ての建物で、玄関先にエレベーターと階段があり、訪問者は他の人と顔を合わせることなく目的のユニットに行くことが出来る造りとなっている。管理者と職員は利用者の人権を尊重し、家族の思いや意向を取り入れながら安心と寛ぎの日々を提供しており、随所に家庭的な温もりが感じられる。利用者は人物画や編み物などの趣味を楽しみ、春のお花見から秋の紅葉見学に至るまで遠出のドライブや近隣を散策し、町内会館で開催する会員が演ずる「花園一座」の演芸会や近くの保育園児の歌と踊りの訪問に心癒され、穏やかな暮らしをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、個性を尊重し、ご家族様の安心、地域との関わり等を大切にしている。敬愛を重視したサービス向上に努めている。	法人の基本理念である「敬愛」の精神を基に、地域の中で家族と共に笑顔を取り入れた事業所の理念を職員間で共有し、実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催しに積極的に参加させて頂き、保育園園児等の交流を通し地域との関わりを大切にしている。	町内会の夏祭りの協力や盆踊りに参加している。管理者と職員は近隣の方々と挨拶を重ね、市営団地住民が見学を訪れ、保育園児との交流があり、七段飾りのお雛様が寄贈されるなど交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の際、町内会の役員の方々に避難訓練などに参加して頂き非常時の体制を確認している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に開催し、ご家族様や町内会、地域の方々のご意見やご提案をサービスの向上に繋げている。	定期的に行っている運営推進会議は行事報告や現状報告があり、町内会活動の情報、包括支援センターの取り組みが話され、議事録は家族に送付している。	会議は報告や情報交換に留まらず、参加者から素直な意見をもらい記録し、サービスの向上に活かすことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や保健所で行われている研修等に積極的に参加し、研修内容を職員全員で共有しケア取組、サービスの向上に活かしている。	管理者は規定されている行政報告や困難事例の件で市担当者を訪れたり、電話などで相談している。ケースワーカーが定期的に担当利用者を訪れ情報交換が行われ、協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に拘束かどうか考え、入居者様の安全において必要と思われる時にはご家族様の同意をいただいている。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、法人合同の管理者研修会に参加して伝達講習をしている。法的基準に於いて禁止の対象となっている行為を含めたチェック表で全職員の意識を確認するなど拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修に積極的に参加し、施設内での勉強会を行い虐待防止に繋げている。		

ふれあいの里 グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会で学ぶ機会を持ち、必要な方にはご家族様と連携し活用し、成年後見人制度を利用している方には後見人の方連携し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の際に契約書等に関する内容を説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日々の関わりの中から意見や要望を聞き、サービス繁栄に努めている。	家族の面会時の頻度はそれぞれに違いはあるが、仕事帰りに毎日立ち寄り横になるまで一緒にいたいとの要望を聞き入れたり、少しでも歩けるようにという願いに日々歩行器で練習を重ねるなど、家族の意見を反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は職員会議等で検討をし、運営に反映するようにしている。	管理者は職員の意見や要望を聞く機会を多く持ち、法人内人事異動、勤務時間短縮の希望、業務の見直しなどはカンファレンスや本社と相談で解決している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修や勉強会の参加を推進し、個々の努力、実績を認め、やりがいの持てる職場環境作りに努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、当ホームの勉強会や外部研修への参加を行い、チームや個々としての知識や技能を向上するよう努める。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック毎の会議や勉強会、南北海道グループホーム協議会での交流を図り、サービスの質の向上に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様、ご本人様からこれまでの生活状況を伺い把握し、その方個々の入居者様にあった対応を考え、安心して生活して頂けるよう努める。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いや要望等を話し合える関係づくりに努め、思いを聞き取り、安心できるよう心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様が今求めている支援を見極め対応し、必要であれば他のサービスにも繋げていけるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が得意な事、出来る事、出来ない事を見極め見守りや、お手伝いをし職員と入居者様が共に支え合える関係が築ける様努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様面会やご家族様との外出などを支援し、行事の際にはご家族様にも参加を呼びかけ、ご本人様と一緒に過ごして頂ける様にしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月、ご家族様へお手紙を送り、ご本人様の様子をお伝えしている。また、ご自宅へ外泊される際にも支援行なっている。	契約時のアセスメントで友人の名前を伺い、面会や電話などで継続を支援している。季節ごとに果物を届けてくれる友人へ礼状の代筆、お墓参り、海を見たいと望むご主人が元漁師の利用者、個々に合わせて支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様、一人一人の性格などを理解して、レクリエーション、行事や日々の生活の中で、入居者様がより良い関わりが持てる様支援に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、今までの関係を大切に、退去後も郵便物が届いている場合には連絡を入れたり、必要に応じてご様子を伺いご家族様の相談支援に協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の事前のデータの把握、日頃から会話や見守りの中から希望や意向の把握に努めている。	暮らしの中で出来る事、出来ないことを把握し、本人の思いや意向を汲み取り、フェイスシートに記録して家族の協力を得ながら見直しや調整を図り、取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の生活歴の把握、お部屋には好みの家具等の私物を用いて頂き、サービス利用の把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、できる、できない事の把握に努め、個々の体調や気分に合わせて関わりに対応を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態観察やカンファレンス等にて課題やケア方法を話し合い、ご本人様やご家族様の意向を大切に、その方に合った介護計画を作成している。	本人家族の意見や要望を反映し、日常の介護記録やモニタリングで解決すべき課題や目標を定め、主治医の意見書を参考に介護計画を作成している。状況の変化に伴い、随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や変化など個別に記録し、職員間で情報を共有しながら、必要に応じた介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人内での研修会等で意見交換等行い、病院受診対応や個々の方の必要に応じた買い物代行等、柔軟な対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物への参加や近隣保育園児の訪問、ボランティアの方にも来訪して頂き交流を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様が希望されるかかりつけ医に定期的に受診、往診を受けられる様支援を行っている。	利用者は従来の主治医に受診している。協力医が毎月2回往診し、1週間毎に訪問看護師が健康管理や指導に訪れ、夜間対応も整えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近隣の協力病院と医療連携をとり、週1回、健康管理指導看護師と相談や情報の共有をしている。入居者様が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはご家族様に報告し、病院関係者へ情報提供、相談を行い関係作りに取り組んでいる。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様へ重度化、終末期等の意向を確認の上、十分に説明を行い、方針を共有し病院関係者等と情報交換を行っている。	契約時に重度化に伴う事業所の指針を家族に説明し、同意を得ている。かかりつけ医の判断で終末期を迎えると家族の意向を再確認し、職員間で共有をしながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に応急手当、初期対応が職員全員行えるよう、講習、勉強会に参加し知識を深めている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、または夜間を想定し年2回の防災訓練を行っている。職員が確認できるよう避難所マップを提示している。	年2回の昼夜想定訓練を地域の方々の参加で実施している。避難時のために利用者の情報記録が入っている携帯用ケースや備蓄を用意し、消防署員による自然災害時の対応や地域の雨量の流れなどの指導が行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、一人一人の気持ちやプライバシーを考え言葉かけに工夫し対応している。	接遇の内部勉強会でプライバシーについて学び、排泄時の声がけや、誇りを傷つけない対応を職員間で共有している。	食堂に面したところのトイレに大型の暖簾などを利用して羞恥心に配慮することを期待したい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや希望を優先し、事故決定ができるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしていきたいか、ご本人様の声に耳を傾け、それぞれのペースを大切にした支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が気持ちよく過ごせるよう、希望に沿った身だしなみやおしゃれに対する支援をしている。			

ふれあいの里 グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好み等を把握し、個々に合った食事を提供している。個々の能力に応じて盛り付けや食器拭きなどのお手伝いをして頂いている。	食材が届く本所に食事人数や禁食などの情報はFAXで伝え、利用者の好みに合わせて調理している。月例の会議で行事食、外食、出前などの要望を出し、盛り付けや茶碗拭きを一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人にあった摂取量を把握し、食事形態等工夫し提供している。水分摂取が困難な方には、好みのゼリーや、トロミ剤等を使用し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、夕食後には義歯を洗浄剤につけ対応している。ご本人様の不十分な部分のお手伝いを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、自尊心に配慮した対応、トイレ誘導や汚染の確認等を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、歩行介助や誘導でトイレを利用している。介護度の上昇により夜間はおむつを使用する事もあるが、安眠優先に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士のメニューにより野菜を多く取り入れている。牛乳等の飲用を促したり、体操や歩行にて運動への働きかけを行い、予防に取り組んでいる。また個々の排泄パターンを把握し、便秘時には主治医より処方された薬を服用して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望やタイミングに合わせ、気持ちよく入浴できるよう支援している。	脱衣所や浴室は床暖房が施してあり、週2～3回の入浴は、本人が入りたい時間にタイミングや体調を考えて入浴している。入浴剤の使用を好まない利用者は最初に入るなど、個々がゆったり楽しく入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを大切に希望に沿った対応にて、安心して過ごして頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容等の把握をし、職員全員が服薬介助に責任を持ち、服薬内容の変化の際には内容確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様が希望する家事の役割等を積極的に行えるよう支援している。また行事、お誕生会、散歩等楽しんで頂けるよう支援している。		

ふれあいの里 グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日には気分転換に外に散歩したり、お花畑をみに行ったり、行事の際には、地域の方々と接したりしている。	町内会行事の参加や近所の花壇を見ながらの散歩、近くのコンビニでの買い物や玄関先での日光浴、市内の桜の名所でのお花見など天気のよい日は率先して外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の管理能力に応じ、お小遣いを所持される入居者様もいます。買い物はできるだけ同行しての支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望によりスタッフが電話をかけて内容を伝えたり、かかってきた電話にてお話して頂いたりしている。また手紙を書けるよう支援している。届いた手紙はご本人様にお渡しし確認して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事ごとに施設内の装飾を変えて対応している。共有の空間には季節ごとの装飾や、行事や誕生会等の写真を飾っている。必要に応じて遮光、室温調整、換気等行い、快適に過ごして頂けるよう努めている。	居間にある畳敷きの小上がりには七段飾りの、おひなさまが飾られ、陽当りのよい居間のスペースには多数のソファがテレビの前に置かれ、玄関フロアーには小型の装飾品が愛らしさを感じ、元利用者の家族が毎月届けてくれる額入りの作品は感謝の心が伝わる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士、交流が図れるよう、食卓テーブルやソファなどの位置を考慮したり、一人一人の思いに沿うような環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族様に相談し、ご本人様の好みや使い慣れた物を使用して頂き、ご本人様が居心地良く過ごして頂ける工夫を行っている。	居室はクローゼットが備え付けてあり馴染みの家具や趣味の人物画の作品や人形、ぬいぐるみ、家族の写真などが飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー、手すりを設置している。できるだけご本人様の生活パターンに合わせて見守り、お手伝い行う事で安全、穏やかに過ごして頂けるよう支援している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400308		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム グース 2F		
所在地	函館市花園町24-3		
自己評価作成日	平成30年2月6日	評価結果市町村受理日	平成30年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の思いを尊重し、日々の生活を穏やかに自分らしく過ごして頂けるよう、スタッフ一同、日々活発に意見を出し合い、相談し実現に取り組んでいます。年間を通し四季折々の行事を楽しんで頂いたり、町内会の催し物等に参加させて頂いています。また、健康維持のためリハビリ体操・嚙下体操を行っています。食事に関しては、当グループホーム関連会社が配食産業の会社であり、ご高齢の方に最適な食生活を提供する事を責務としています。また、全道各地に同グループの事業所があり、連携を取り合っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400308-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年2月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、個性を新調し、ご家族様の安心、地域との関わり等を大切にしている。敬愛を重視したサービス向上に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催しに積極的に参加させて頂き、保育園園児等の交流を通し地域との関わりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の際、町内会の役員の方々に避難訓練などに参加して頂き非常時の体制を確認している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に開催し、ご家族様や町内会、地域の方々のご意見やご提案をサービスの向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や保健所で行われている研修等に積極的に参加し、研修内容を職員全員で共有しケア取組、サービスの向上に活かしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に拘束かどうか考え、入居者様の安全において必要と思われる時にはご家族様の同意をいただいている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修に積極的に参加し、施設内での勉強会を行い虐待防止に繋げている。		

ふれあいの里 グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会で学ぶ機会を持ち、必要な方にはご家族様と連携し活用し、成年後見人制度を利用している方には後見人の方連携し支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の際に契約書等に関する内容を説明している。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日々の関わりの中から意見や要望を聞き、サービス繁栄に努めている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は職員会議等で検討をし、運営に反映するようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修や勉強会の参加を推進し、個々の努力、実績を認め、やりがいの持てる職場環境作りに努める。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、当ホームの勉強会や外部研修への参加を行い、チームや個々としての知識や技能を向上するよう努める。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック毎の会議や勉強会、南北海道グループホーム協議会での交流を図り、サービスの質の向上に努める。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の状況を受け入れ、安心して生活して頂けるよう支援している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いを聞き取り、ご家族様が安心できるような対応を心かけている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様が今何を希望されているのか、何が必要なのか、優先順位を考慮し支援している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ができる事、できない事を見極め、できる事についてはその範囲で見守りを行い、できない事についてはお手伝いをし、共に生活していくという考えで支援している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用者様のご様子をお手紙にしご家族様にお知らせをし、ご家族様と利用者様の繋がりを大切にしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人の方等訪問された際は心地よい環境過ごして頂けるよう配慮している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、行事や日々の生活生活の中で入居者様同士の交流が出来るよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も郵便物が届いている場合には連絡を入れたり、必要に応じて様子を伺う対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の事前のデータの把握、日頃から会話や見守りの中から希望や意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の生活歴の把握、お部屋には好みの家具等の私物を用いて頂き、サービス利用の把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、できる、できない事の把握に努め、個々の体調や気分に合わせて関わりに対応を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態観察やカンファレンス等にて課題やケア方法を話し合い、ご本人様やご家族様の意向を大切に、その方に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や変化など個別に記録し、職員間で情報を共有しながら、必要に応じた介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人内での研修会等で意見交換等行い、病院受診対応や個々の方の必要に応じた買い物代行等、柔軟な対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物への参加や近隣保育園児の訪問、ボランティアの方にも来訪して頂き交流を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様が希望されるかかりつけ医に定期的に受診、往診を受けられる様支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近隣の協力病院と医療連携をとり、週1回、健康管理指導看護師と相談や情報の共有をしている。入居者様が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはご家族様に報告し、病院関係者へ情報提供、相談を行い関係作りに取り組んでいる。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様へ重度化、終末期等の意向を確認の上、十分に説明を行い、方針を共有し病院関係者等と情報交換を行っている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に応急手当、初期対応が職員全員行えるよう、講習、勉強会に参加し知識を深めている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、または夜間を想定し年2回の防災訓練を行っている。職員が確認できるよう避難所マップを提示している。			

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、一人一人の気持ちやプライバシーを考え言葉かけに工夫し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや希望を優先し、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしていきたいか、ご本人様の声に耳を傾け、それぞれのペースを大切にした支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が気持ちよく過ごせるよう、希望に沿った身だしなみやおしゃれに対する支援をしている。		

ふれあいの里 グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好み等を把握し、個々に合った食事を提供している。個々の能力に応じて盛り付けや食器拭きなどのお手伝いをして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人にあった摂取量を把握し、食事形態等工夫し提供している。水分摂取が困難な方には、好みのゼリーや、トロミ剤等を使用し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、夕食後には義歯を洗浄剤につけ対応している。ご本人様の不十分な部分のお手伝いを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、自尊心に配慮した対応、トイレ誘導や汚染の確認等を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士のメニューにより野菜を多く取り入れている。牛乳等の飲用を促したり、体操や歩行にて運動への働きかけを行い、予防に取り組んでいる。また個々の排泄パターンを把握し、便秘時には主治医より処方された薬を服用して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望やタイミングに合わせ、気持ちよく入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを大切に希望に沿った対応にて、安心して過ごして頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容等の把握をし、職員全員が服薬介助に責任を持ち、服薬内容の変化の際には内容確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様が希望する家事の役割等を積極的に行えるよう支援している。また行事、お誕生会、散歩等楽しんで頂けるよう支援している。		

ふれあいの里 グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望によりスタッフが付添にて買い物などの支援を行っている。暖かい季節などにはご本人様の希望を聞き散歩なども行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の管理能力に応じ、お小遣いを所持される入居者様もいます。買い物はできるだけ同行しての支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望によりスタッフが電話をかけて内容を伝えたり、かかってきた電話にてお話して頂いたりしている。また手紙を書けるよう支援している。届いた手紙はご本人様にお渡しし確認して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事ごとに施設内の装飾を変えて対応行っている。共有の空間には季節ごとの装飾や、行事や誕生会等の写真を飾っている。必要に応じて遮光、室温調整、換気等行い、快適に過ごして頂けるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士、交流が図れるよう、食卓テーブルやソファなどの位置を考慮したり、一人一人の思いに沿うような環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族様に相談し、ご本人様の好みや使い慣れた物を使用して頂き、ご本人様が居心地良く過ごして頂ける工夫を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー、手すりを設置している。できるだけご本人様の生活パターンに合わせて見守り、お手伝い行う事で安全、穏やかに過ごして頂けるよう支援している。		

目標達成計画

作成日：平成 30年 3月 14日

市町村受理日：平成 30年 3月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	定期的に運営推進会議を開催し、現状・行事報告等を行い、町内会活動の情報、包括の取り組み等も話されている。報告や情報交換に留まらず、参加者からの意見を頂いたり、他のご家族様に議事録として報告する事が不足していた。	色々な意見を頂く事で、サービスの向上に活かして行く事ができる。 ご本人様・ご家族様が、安心して生活して頂く事ができる。	運営推進会議 ・現状、行事、研修報告 ・入退去報告 ・事故、ヒヤリハット、苦情、要望等の改善報告 ・個々に参加者様からの意見を頂く	2ヶ月
2	36	職員、接遇の内部勉強会やプライバシーについて学び、排泄時の介助を行う際は誇りを傷つけない対応を職員間で共有しているが、食堂の正面にトイレがある事で、トイレを使用する際、介助に入る際等、中の様子が見える事があった。	トイレを使用する際に差恥心、プライバシーに配慮した使用の取り組みができる。	・食堂に面したところのトイレに大型ののれんを設置する。 ・トイレ使用する際のドアの開閉に注意、配慮行う。 ・介助が必要な方は職員間での声掛けや差恥心に配慮し支援を行う。	2ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。